



“見た目(違い)”を気にする?

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

副会長 吉田 勝利

私を含めて多くのひとは、見た目の違いを気にします。それは、生まれ、人種・国籍、性別、年齢、身体的状況、精神的状況、宗教的文化的背景、社会的地位、経済状況、環境、果ては血液型・星座、服装、趣味等に至るまでのありとあらゆるものにおいて違いを気にしながら生活をしています。

ひとは、自分との“違い”に出会った時にどんな行動をするのでしょうか。違いが“ある”ことに不安を感じながら目を合わせないようにしたり、攻撃したり、無視をしたり、高い(?)壁を作って自分を守ろうとします。その反面、“違い”を自分(特徴)と感じ、違いを少しでも認めようとして声をかけたり、なんらかの働きかけをしたり違いを理解するために勉強したり、自分を知ってほしいと主張(言葉・行動・服装・生活スタイルなど)するなどの行動をしています。なぜ、ひとは、否定・肯定両面の行動をするのでしょうか。きっとそれは、自分の周りに、これまでの経験(生活)のなかで出会ったことがなかったか、あるいはあまり多く出会う機会がなかったから、その違いに対し、自然に関わることができず過度に反応してしまうのか、違いを特徴と考え理解・受け止めようと意識的にかかわろうとするのでしょうか。

わたしたちの目に見える、聴こえる、感じる“違い”がその人、環境のすべてではなく多くの特徴のなかのほんの一部にすぎません。出会った“違い”を否定的にとらえることなく、“違い”があることは当たり前でありその違いとうまく付き合いながら生活をしていくことができるようにしてみようと思いませんか。そのためにまずは自分の中にある違いを見つめ、自分は「だめなんだ」と思うのではなく自分は自分と受け止め、そんな自分にもできることが少しはあると信じ行動をしてみませんか。生活のなかで“違い”に出会った時、暖かい眼差しでみつめ、ほんの少しの勇気をもって声をかけかかるとからはじめてみませんか。そのことを重ねていくことによって、きっと違いは

あり続けるかもしれませんが、その“違い”が“当たり前”になり生活の一部になっていくと思います。

21世紀にはいり、私たちを取り巻く環境・社会はグローバル化、国際化の波が押し寄せるとともにもっと個人を大切にと呼ばれ、これまで「ひとと“同じ”ことがよし」されてきたことが「ひととは“違う”ことがよし」と考え、生活が変わり行く中、“違い”に出会う機会が非常に多くなり、自分では、その“違い”を一生けん命理解しよう。違いを現そうとしてみようかいない時がたくさんあると思います。時に自分を抑えきれず攻撃したり、否定したり、衝突することもあるでしょう。そして・・・そのような時に、ほんのすこしだけあなたの“ちから”になるのが社会福祉士です。

ひとが“違い”を認め合い、“違い”があることが当たり前になり、違いとうまく付き合いながら生活できる社会になっていくことができるように本会会員は、おかれた地域で活動を行っていくとともに日々、努力・研鑽をおこなっています。

CONTENTS

- 02 【特集】第25回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(福島大会)
- 04 大熊町被災地見学に参加して
- 05 この人に聞く～社会福祉士とわたし
- 06 平成28年度 理事会報告
平成29年度 理事会報告
- 07 たまひよ紀行
生涯研修センターよりお知らせ
- 08 公開講座&研修会・編集後記

第25回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（福島大会）が、6月3日、4日、福島県郡山市にある、ビッグパレットふくしまにて開催されました。今大会のテーマは「障壁をこえて～共に歩む社会福祉士」として、全国から1000人を超える社会福祉士が集まりました。



会場の様子

基調講演では「障壁をこえて～社会福祉士への期待」と題し、一橋大学大学院社会学研究科教授の猪飼周平（いかいしゅうへい）さんが登壇。猪飼さんは「津久井やまゆり園」の事件の被害者の考え方を例に挙げ、「生産性の高い人間は価値があるということ、生きる価値が高いということを結びつけて考えてしまう。これは私たちの日常と地続きである」と、効率性を重視した社会保障モデルの限界について語りました。

その上で「生活問題は複雑で、単純なやり方では解けない」と述べ、どこにでもソーシャルワーカーがいる状態を作り、一人一人に対応する生活モデルを実現し、プロのソーシャルワーカーは、それをリードしていく存在であるべきと、発想の転換を促しました。

さらに社会福祉士に期待することとして、「日本社会で一番欠けているソーシャルワークは、『ソーシャルワークの良さ』それ自体を伝えること。セーフティーネットはソーシャルワークしかない」と述べ、戦略的に取り組んで欲しいと期待を

寄せました。

2日目の記念講演では「福島の今とこれからを語る ～東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故は私たちに何を残したのか～」と題し、フリーアナウンサーの大和田新（おおわだあらた）さんが登場。

ラジオ福島のアナウンサーであった大和田さんは、「原発事故からの避難から来る、ストレスによる持病の悪化、自殺による震災関連死の数が、津波などによる直接死の数を超えるのは福島県だけです」と述べ、震災から6年が経とうとしている今日でも、2千人を超える震災関連死が増え続けている現状を語りました。

また津波で亡くなった一人一人のエピソードを丁寧に紹介し、「今日は二万人以上が亡くなった『東日本津波原発事故大震災』から何日目ではありません。次に起きる大きな災害の前日なのです」と、想像力を働かせて次の災害に備えるよう訴えました。



発表者と記念撮影



懇親会の様子

最後に、福島県から山口県へ、歴史の障壁を越えてパトンが渡され、閉幕しました。大会の詳しい模様は、福島県社会福祉士会全国大会2017実行委員会のFacebookページ「Fcsw全国・福島大会」に、当日の写真や動画とともに掲載されています。

大会・社会福祉士学会（福島大会）

発表の概要、感想

相談支援専門員における業務環境の把握と考察～バーンアウトと要因の関連性から～ 篠田 誠さん



福祉経営分科会にて、相談支援専門員の業務環境に関する考察について発表しました。

自身が感じたことや、他の法人で同職種をしている方と話をしつつ、各々悩みを抱えていることや、職務の形態が様々であることが今回の発表に取り組むきっかけになりました。実績や疲労感や大変さには指標がない中、どうしたら実績指標や適正な業務量など理解して

もらえるのかを感じていました。なるべく客観性をもって示すことを発表の主眼として捉えていました。

当日は当初の想定を上回り、会場の席が足りず、立ち見が2列できるほどでした。発表の準備は十分にしていたものの、緊張感があり、発表中は内容が飛びそうになりました。落ち着いたのは、質疑応答になってからだったと思います。

活発な質問が出て、「私の会社でも同様の事情がある。どういう取り組みがよいか」等共感や興味をもっていただき、それに対してどうしているかなど、参加者から意見が聞けたことが、今回の発表の中で一番充実した場面でした。

業界の、そして人生の諸先輩の方々が、話を折ることなく、実態を忌憚なく話していただいたことがありがたく感じました。

今回、全国大会に初めて参加しましたが、準備から当日に至るまで、県士会の皆様のご協力をいただき、ありがとうございました。

セルフ・ネグレクト状態にある独居高齢者支援プロセスについて 湘南東 清水 聖子さん



先日、郡山で行われた社会福祉士学会福島大会に参加しました。全国大会への参加は2回目ですが、今回は3月7日締め切り間際に申し込み、採用していただき、発表者として参加してきました。発表題目は「セルフ・ネグレクト状態にある独居高齢者支援プロセスについて」でした。

6月4日の発表当日は9時15分に集合して、最終ガイダンスが行われることになっていましたが、「遅れ

てはいけない！」と張り切りすぎて会場に早く着きすぎ、ちょっと恥ずかしいスタート。私以外の発表者の皆さんは、かなり発表慣れしている感じで、「慣れないと緊張しますよね～」と声をかけていただき、ありがたかったです。

「権利擁護」分科会の4番目（最後）の発表でしたので「誰も聞きに来ないのでは?!」という不安は若干ありましたが、始まってみると大勢の方が聞きに来てくださり、つたない発表（持ち時間が15分なのに11分で終わる!!）ではありましたが、質疑応答の時間には、質問というより、助言や励ましの言葉を多くいただき、「発表してよかった」という気持ちで郡山を後にすることができました。

学会運営委員長の原田先生はじめ、分科会担当委員の福田先生、運営委員の皆様へ感謝申し上げます。研究会や学会での発表は、認定社会福祉士の更新要件にもなっています。

来年は山口県ですので、皆様もぜひ!!

大熊町被災地見学に参加して

2017年6月2日、福島県郡山市で行われた日本社会福祉士会全国大会福島大会に先駆けて行われた大熊町の被災地ツアーへ行きました。

大熊町の被災地の一番の特徴は、6年という時間の経過を感じさせなかったところです。復興に向け様々な取り組みがなされていますが、大熊町は、福島第一原子力発電所に近く、町の大半が帰還困難区域に指定されているため、十分な復興事業を行うことができず、あの震災が起こった時のまま残っている状況です。

震災前ヒラメの養殖をしていた施設では、今でも津波に流されたままの状態、壁は一切なく柱だけの状態で残されています。震災から6年たってもなお、あのときの姿のままの光景は、異様な印象を受けました。

多くの場所を見ながら感じたのは、ここは「被災地」ではなく、今まさに起きている「災害現場」ではないかと。バリケードで覆われ「立ち入り禁止」の看板が立っている光景、放射線量を表す線量計、立ち入りが制限されているために機能できない町役場、汚染された土砂やがれきの入ったフレキシブルコンテナバッグの山…。

まるで映画のような現実の中でも、復興に向けて歩みを進めようとしている町の方の姿を見ながら、この「災害現場」に対して、私たちがどのようなことをしなければならないのか、真剣に考える必要があったと思います。



帰還困難区域のため、バリケードを設置して立ち入りが出来なくなった場所



津波被害に遭い破壊された建物が撤去されずに残された姿



福島第一原子力発電所の遠景



ならはパーキングと線量計



除染作業で集められた土砂やがれきの入ったフレキシブルコンテナバッグの山

隣接資格との対比で社会福祉士を見つめる新企画「社会福祉士とわたし」。第1回は神奈川県精神保健福祉士協会副会長の金井緑さん。今年度から神奈川県社会福祉士会横浜支部長を担う島田朝久さんとの対談から考えます。



わからないことを聞き合える

島田：金井さんには一昨年、当会の「たまひよ」に参加していただきました。

金井：はい。会員の参加率の向上という同じ課題を抱えていると聞いていたので「たまひよ」の取り組みを参考にしよう。[たまひよ]では、まだ資格を取る前の人が参加していたので感心しました。

島田：なぜ福祉の世界に？

金井：大学の専攻は心理学で、精神科のデイケアに就職しました。当時の心理学では来談者中心療法が主流で、デイケアでは「受身で待つ」傾向が強かったです。病院勤務時代には社会福祉士の方もおり、業務内容も倫理綱領を見ても大きな違いはないと感じました。

島田：現場としては精神障害の分野で精神保健福祉士の存在はとても頼りになります。

金井：たとえば地域の高齢者のお宅にはひきこもりの子が居て、いろんな角度で福祉の支援の必要に迫られます。お互いの持ち場で協力し、わからないことを聞き合えるといい。一緒にやっていくという体制が、利用者が安心できるんだと思います。

島田：そうですね。

金井：この10年で、社会福祉士会のほか弁護士会、社労士会などのイベントが圧倒的に増えました。有資格者に限らず、いろんな団体と手をつないできています。

専門職の価値

金井：以前、専門職としての価値を見失いかけていたとき、「僕がなにか手助けをしてほしいときに、ここに居てくれたら安心なんです」という、利用者のひと言がいまも忘れられないです。

島田：本人が居ないのに、「この人はこうしたほうがいい」ということはありがちです。

金井：ええ。専門職の必要性に捉われ過ぎると、隣に住んでいるおばちゃん「これ食べなさいよ」という関係のほうが、その人にとっては生活を支えているのかもしれない。ではなぜ、私たちは資格を取ったのかの問いに、そこへ立ち戻る。「おばちゃん」の感覚も持っていたいと思うのです。

島田：私は資格を取っただけでは価値がないと思っています。プロ野球でいえば、ドラフトにかかっただけのようなもので、「たまひよ」を考えた理由はそこにあります。

金井：精神保健福祉士協会としては、社会福祉士会のような研鑽を

積む仕組みがないことが課題です。とはいえ、それがないと仕事ができないというわけでもない。

島田：そこが自分に問われる部分なのではないでしょうか。「この資格があるから価値がある」のではなく、そこに自分がどう向き合うかといった厳しさがおり、そうした環境に身を置くことも大切です。

金井：協会にも入っておらず、研修にも出ない方々は、どこで絶え間ない勉強をしているのかといった疑問も湧いてきますね。

島田：自分たちの価値を社会福祉士が語れないと次の人が続かない。伝えていかないと、私たちの文化を作っていくけません。

福祉の向上を目指す

金井：私は社会福祉士も精神保健福祉士も、学ぶべきベースの学問は社会学だと思っています。社会全体の中でその人のあり方を考える。俯瞰した視点をどれどれもてるかが大事。マニュアルに沿った、ただ、相談室の中で頼まれた仕事だけを終わらせているようでは、その資格は必要ない。精神保健福祉士だと言える根拠をつくるべきだと思います。

島田：たとえば生活と医療をつなぐなど、コーディネートができるのは私たちの役割かもしれません。そのためには他の専門職を理解しないといけない。

金井：私はもっと広い、俯瞰した役割、いわばトータルコーディネーターであっていいんじゃないかと思う。

島田：私のソーシャルワークの基礎は、元の上司が「枠を作るな」と言ってくれたことにあります。福祉じゃないものも含めて、その人にとって何が求められて、何が幸せなのかを考える。

金井：一生懸命その人に向き合っている、こちらサイドの視点で枠を作ってしまうと本人はどう思うか、ですね。元々、お互いのことを知ることは、手をつなぐ一番の近道だと思います。共通する部分がたくさんある中、私が社会福祉士の資格を取ったのもそういう意味だと思いますが、改めて自分自身のアイデンティティが精神保健福祉士にあることに気づきました。

島田：自分たちの価値を言語化し、整理できないといけない。お互いが現場で何をしているのか、何が強みなのか対話する必要がある。いろいろな人と語り、アウトリーチしてつながっていかないと福祉の向上はありません。

金井：そうですね。対立ではなく「共存」し、それぞれの専門性を活かすこと。そのためにお互いを理解するというイメージですね。

島田：ありがとうございました。

プロフィール



【金井 緑さん】精神保健福祉士、社会福祉士。神奈川県精神保健福祉士協会副会長。現在、横浜市内の診療所で勤務。横浜市障害支援区分認定審査員、川崎市障害支援区分認定審査員。



【島田 朝久さん】横浜支部で「たまひよ」を立ち上げる。神奈川県社会福祉士会組織向上委員会などで活動。今年度より横浜支部長。

次号17号では、弁護士との対談を予定しています。権利擁護について専門職同士で語り合いたい社会福祉士を募集しています。関心のある方は8月末までに本会事務局までご連絡ください。

<平成28年度 理事会報告>

■臨時理事会

平成29年3月27日(月) 19時30分～20時55分 神奈川県社会福祉会館2階第1会議室

議長：山下会長、理事出席13名 議事録署名人：出席全理事 齊藤・江原監事

審議事項 議案1 ばあとなあ神奈川名簿登録審査 議案2 2017年度県士会事業計画(案)及び予算(案)
議案3 本会顧問弁護士契約 <以上承認>

報告事項 ①日本社会福祉士会総会報告(3月18日開催) ②第3期(2017・2018年度)代議員選出結果
③正副会長動向 ④前回理事会報告 <以上了承>

<平成29年度 理事会報告>

■第1回理事会

平成29年4月25日(火) 19時～20時50分 神奈川県社会福祉会館2階第2会議室

議長：山下会長、理事出席12名 議事録署名人：出席全理事 齊藤・江原監事

審議事項 議案1 入退会審査 議案2 2017年度支部活動費 議案3 2017年度生活保護地域社会参加支援事業(かがやき小田原)業務委託契約 議案4 2017年度被保護者就労準備支援事業及び居住の安定確保支援事業(かがやき厚木)業務委託契約 議案5 2017年度秦野市生活保護受給者就労準備支援事業(せせらぎ)業務委託契約 議案6 2017年度成年後見人材育成研修の委託契約 議案7 2017年度名簿登録料等の徴収事務委託契約 議案8 2017年度神奈川県介護支援専門員実務研修受講試験受験審査業務の委託契約 議案9 2017年度神奈川地域生活定着支援センター事業委託契約 議案10 ばあとなあ神奈川名簿登録審査 議案11 ばあとなあ神奈川成年後見相談員委嘱 議案12 業務監督委員の委嘱 議案13 未成年後見研修推薦 議案14 規則類改正 議案15 2017・2018年度支部・事業部(委員会)の体制と委嘱 議案16 代議員総会内容 第17号議案 認証申請(地域包括ネットワーク実践力研修) 議案18 2017年度相模原市委託ホームレス等一時生活支援事業契約 <以上承認>

協議事項 ①広報発行内容

報告事項 ①ばあとなあ神奈川運営委員会委員体制 ②各推薦後援状況 ③各事業部(委員会)2月・3月の活動報告 ④各支部2月・3月の活動報告 ⑤3月27日開催臨時理事会議事録 ⑥正副会長動向 ⑦会計報告(3月分) <以上了承>

■臨時理事会

平成29年5月27日(土) 14時～16時 ワークせせらぎ事務所

議長：山下会長、理事出席8名 議事録署名人：出席全理事 江原監事

審議事項 議案1 入退会審査 議案2 2016年度神奈川県社会福祉士会事業報告案 議案3 2016年度神奈川県社会福祉士会決算報告案 議案4 ばあとなあ神奈川成年後見人等候補者名簿登録審査(家庭裁判所提出名簿) 議案5 ばあとなあ神奈川成年後見相談員委嘱追加 議案6 2017・2018年度支部・事業部(委員会)の体制と委嘱 議案7 第三者評価事業受審契約 議案8 支部活動費助成申請西湘支部 議案9 給与規則改正案 <以上承認>

協議事項 ①代議員総会(当日スケジュール確認)

報告事項 ①ばあとなあ不祥事案件 ②2016年度事業・会計 監査実施報告 ③各推薦後援状況 ④受託事業進捗状況 ⑤正副会長動向 ⑥4月25日開催臨時理事会議事録 <以上了承>

◆平成29年度代議員総会

平成29年6月10日(土)13:00～15:10 ウィリング横浜12階 125～127

議長：岸谷一則氏・長谷川栄子氏 議事録署名人：出席全理事、監事、議長、議事録作成者

審議事項 2016年度(公社)神奈川県社会福祉士会事業報告案 2016年度(公社)神奈川県社会福祉士会決算報告案 2017年度・2018年度(公社)神奈川県社会福祉士会第3期代議員 <以上承認>

報告事項 2017年度(公社)神奈川県社会福祉士会事業計画 2017年度(公社)神奈川県社会福祉士会予算 <以上了承>

〇<総会講演会 15:20～16:45>

テーマ「児童虐待の実態と社会福祉士に期待するもの」 講師：弁護士 藤田 香織 氏



たまひよ紀行

参加者の
声

「たまひよクラブ」は、社会福祉士を目指す方、社会福祉士となって日の浅い方が集い、交流し、つながりをつくり、深める場です。今回は、相模原支部で開催された交流会についてご報告します。



たまひよクラブ@相模原

たまひよクラブが、5月26日（金）相模原市にある南区交流ラウンジで開催され、13名の方が参加してくださいました。

今回は、今年度社会福祉士を受験される方、昨年度社会福祉士の資格をとり今の職場でどのように活かしていくか考えている方、社会福祉士の資格を活かせる職場を探している方など、様々な目的意識を持ち参加してくださいました。また、13名の参加者以外にも、先輩社会福祉士の方も参加くださり、活発な情報交換がされました。

「今までこのような仕事をしていて、その経験を社会福祉士として活かしたい」「このようなボランティアを始めて、社会福祉士に興味を持った」「このような社会に対する問題意識から、社会福祉士

のこの仕事をしたい」などのお話から、参加者それぞれが知りたいことのヒントや、社会福祉士を目指した自身の原点の確認など、多くのことを学び合うことができました。

「たまひよクラブ」の良いところは、社会福祉士らしさを1人で考えるだけではなく、社会福祉士の横のつながりの中で、新たな社会福祉士らしさを見つけるところにあります。「たまひよクラブ」では、社会福祉士を目指す方、社会福祉士となって日の浅い方、将来社会福祉の現場で働くか迷っている学生の方など、多くの方の参加をお待ちしています。



生涯研修センターよりお知らせ

基礎研修Ⅰ、基礎研修Ⅱ・基礎研修Ⅲは、申し込みを終了しました。

倫理綱領・行動規範研修は、現在会場を調整中です。決まり次第ホームページ上でご案内させていただきます。

研修名	時期	内容
倫理綱領・行動規範研修	2017年11月18日 土曜日	社会福祉士の専門性とは何かを倫理綱領から振り返る。 受講料：3,000円
実践発表大会	2018年2月～3月 ごろ実施	会員の方の日ごろの福祉実践の発表 受講料：無料

URL : <http://www.kacsw.or.jp/>

神奈川県社会福祉士会

検索

～公開講座&研修会～

お申込み・
お問い合わせは

電話：045-317-2045

FAX：045-317-2046

e-mail：web@kacsw.or.jp

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 事務局 までお願いします。

月	日	開始時間	終了時間	研修名	概要	場所	主催	対象	費用
7	2	9.45	11.45	ばあとなあ神奈川更新研修	ワールドカフェ方式による事例検討	藤沢市民会館 第2展示ホール	ばあとなあ神奈川湘南東地区	ばあとなあ部員	300円～500円
7	15	15.00	17.00	サロン(情報交換会)	会員との情報交換・情報共有	川崎市北部身体障害者福祉会館	川崎支部	会員	無料
7	29	17.00	19.00	車座集會	日本三大広小路(藤沢宿)にて社会福祉士の未来を語ろう!!	藤沢市ふじさわ 宿交流館(藤沢橋交差点そば)	湘南東支部	社会福祉士	無料
8	26	9.30	11.45	「支援に必要な基礎知識」～高次脳機能障害関係～	・「高次脳機能障害の理解」調整中 ・「交通事故による高次脳機能障害の民事上の問題」 講師：神奈川県弁護士会 狩倉博之氏	ウィリング横浜12階 会議室 126～127号室	相談事業部生活困窮者支援ネットワーク委員会	県民 ばあとなあ	無料
8	26	13.30	16.30	「無料法律相談会」	弁護士による個別的な相談に応じます。	ウィリング横浜11階 討論室A・B	相談事業部生活困窮者支援ネットワーク委員会	県民	無料
9	13	18.30	20.30	サロン(情報交換会)	会員との情報交換・情報共有	川崎市北部身体障害者福祉会館	川崎支部	会員	無料
9	16	13.30	16.30	横浜支部地域連絡会の集い	横浜支部地域連絡会および会員の活動紹介、参加者意見交換など	横浜市消費生活総合センター(上大岡)会議室3	横浜支部	横浜支部会員および関心のある方	無料
10	14	10.00	11.30	「多重債務・過剰債務無料相談会」	弁護士・司法書士による個別的な相談に応じます。	湘南ミサワホームミーティングルーム 1・2(藤沢市辻堂神台 1-3-39 オザワビル)	相談事業部生活困窮者支援ネットワーク委員会	県民	無料
10	14	14.00	16.00	「法テラスによる講座 多重債務・過剰債務相談について」	借金等を抱える生活困窮者を支援するための支援方法及び法律の知識に関する講義を行います。	Cocco Terrace(ココテラス)湘南 会議室 会議室2・3(藤沢市辻堂神台2丁目)	相談事業部生活困窮者支援ネットワーク委員会	県民 ばあとなあ	無料
10	29	未定	未定	成年後見制度普及啓発事業	内嶋弁護士講演・住ひな太郎落語 コント等	ココテラス湘南(辻堂駅そば)	神奈川県社会福祉士会	県民	無料
10	末	未定	未定	寒川町ふれあい・スポーツ・健康まつり	一般対象の福祉相談と広報活動	寒川中央公園	湘南東(出展)	県民	無料

編集後記

「あさがおに」想う

我が家の鉢植えの朝顔が蔓を伸ばし、二つ、三つ小さな蕾を携えている。草いきれのする湿度の高い朝に、生まれたての新鮮な朝を届けてくれる、そんな風情を感じる。朝顔の花の命は短く、はかないものの例えとして、「朝顔の露」と表現されたり、「落花一朝の夢」と使われたりすることもある。

本号掲載の「大鰐町被災地見学に参加して」というレポートを読んだことも作用しているかもしれないが、6年の月日を朝顔に重ねてしまうと同時に「時の流れ」にとってもゆかりの深い植物であると感ずる。

大正から昭和に活躍し、人間性に深く根ざした作風を追求した

俳人、石田 波郷(いしだ はきょう)は「朝顔の紺のかなたの月日かな」と詠んでいる。この句の「かなたの月日かな」の部分を「過去」ととるか「未来」と考えるかによってこの句の趣が変化するが来し方の「過去の月日」だったのか、それともまだ見ぬ「未来の月日」なのか、解釈は皆様にお任せするが、4頁に掲載の写真を見る限り、あの惨劇を過去の出来事として捉えることは私には出来ない。

いつの日か、夏休みを前にした小学生が「朝顔の鉢植え」を汗で張り付いた前髪をかきながら誇らしげに持ち帰る、そんなありふれた毎日が被災地の家々に戻ることを祈りたい…。(広報委員長：日向 明)

